

ニホンウナギの生息地保全の考え方(概要)

背景及び目的

- ニホンウナギの個体数は1960年代と比較すると大きく減少。
- 生息環境の保全・再生の考え方と具体的な手法を例示し、今後、様々な主体がニホンウナギの生息地保全を行う際の参考になることを目的とする。

ニホンウナギを取り巻く現状

- レッドリストの位置付け 環境省レッドリスト2015 絶滅危惧種 I B類(EN)、IUCNレッドリスト EN
- 減少要因 ①海洋環境の変化 ②過剰な漁獲 ③河川や沿岸域などの生息環境の変化

ニホンウナギの基礎情報

- 形態 前方が円筒形の細長い形。斑点模様はない。成長段階によって体色の変化。
- 分布 東アジア諸国。国内では本州以南に自然分布していると推測される。
- 生活史 マリアナ諸国西方海域で孵化→レプトセファルス幼生→黄ウナギ(成育期)→銀ウナギ(成熟期)→産卵
- 消費と流通 ウナギの稚魚は繁殖に利用、黄ウナギ及び銀ウナギは「天然ウナギ」として漁獲

ニホンウナギの生息環境とその保全・回復に関する考え方及び技術的手法

ニホンウナギの生息地の保全と回復に関する基本的な考え方

予防原則と順応的管理

本来河川や沿岸域等が有している生物の多様な生息・生育環境を保全・回復する必要

取組の方向性・技術的手法

移動の確保

○縦方向のつながり

・河川横断構造物により、およそ40cm以上の不連続な水位差が恒常的に生じている場合、河川の流量、流速、水位等を考慮し必要に応じて落差の緩和や効果的な魚道を設置等が望ましい。

○横方向のつながり

・河川と流域の水田、水路、ため池等の連続性の確保が望ましい。

○水域全体のつながり

・縦方向、横方向のつながりが回復することで相乗的に生息環境が広がる効果を期待。
・ウナギの産卵場により近い河川の下流からつながりを回復することが望ましい。
・成長した個体が産卵回遊のために河川を下る際の安全性の確保が望ましい。

局所環境の改善

- かくれ場所
- 多様な水深
- 水際の多様性(浅い瀬と淵)
- 河口と沿岸域(干潟)の重要性
- 豊かな餌生物
- 水質

モニタリング手法

- 魚類相調査
- 定量的捕獲
- 環境計測



ニホンウナギが生息していることの意義、シンボル種

- 幅広い分布域において、多様な生態系サービス(供給・文化的・基盤)を提供。
- 河川、湖沼、沿岸域を含む、水辺の生態系のシンボル種として、生物多様性の回復を促進。

ニホンウナギの保全に向けた取組事例

関係省庁・各種主体が連携・協力してニホンウナギの保全に向けた取組を実施